



新しい
ステージへ

増改築工事が はじまります

地域の皆さまに支えられ、病院創立30周年を迎えた今年、新たなステージへの病院づくりをめざし、回復期リハビリテーション病棟のいっそうの充実と外来診察ゾーンの拡充のための病院増改築工事がいよいよ始まります。工事工程は9月から来年3月までを第Ⅰ期病棟増築工事、その後の約3か月を第Ⅱ期改築工事としています。今回の増改築工事は、今日国がすすめる医療機関の機能分化の流れの中にあつて、脳血管疾患（脳卒中）と運動器疾患等に対するリハビリテーション医療機能と総合的な内科診療機能の更なる充実をめざすものです。当院は急性期病院と連携し、診療所の在宅医療を支え、支援する、地域に根ざした病院づくりを更にすすめます。工事期間中はいろいろとご迷惑をおかけすることと思いますが、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。



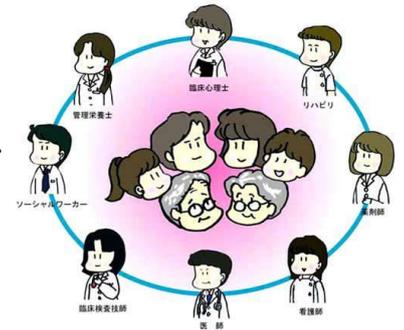
医療ソーシャルワーカーと チーム医療について

今回は、「医療ソーシャルワーカーとチーム医療」について記載させていただきます。

まず、その前に「医療ソーシャルワーカー」とは・・・保健医療機関において、社会福祉の立場から患者さんやその家族の方々の抱える経済的・心理的・社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る業務を行う者のことです。（厚生労働省『医療ソーシャルワーカー業務指針』より抜粋）つまり、入院中や在宅療養中に起こる問題や心配事に対してそれに見合った社会資源（制度やサービス等）

を紹介するなどして解決をお手伝いしていく役割を担っています。近年は、各医療機関に配置されていることが多くなり「MSW」や「相談員」というような名称で一度は耳にされている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

ただ、ソーシャルワーカーだけですべての問題を解決しているわけではありません。一人の患者さんに対して、医師、看護師をはじめとする複数の医療専門職が連携して治療やケア、諸々の問題解決に当たります。これがいわゆる「チーム医療」を言われるものです。



例えば、脳梗塞を発症し片麻痺となり車椅子生活となった患者さんが在宅復帰のためのリハビリ入院してこられた場合、まず主治医が治療方針を立て治療が開始します。その後主治医をはじめ、看護師、リハビリセラピスト、ソーシャルワーカーらがそれぞれの専門性や技術を活かして連携や協働をし、在宅生活を送れるようになるためにどのようなことをしていけばよいかを検討、実行していきます。この場合のソーシャルワーカーの役割は、退院直後からスムーズに在宅生活が行っていけるように、かかりつけ医やケアマネジャーなど在宅でサポートしていく関係機関との連絡調整を行います。もちろん、患者さん自身やそのご家族もチームの一員として、自身の希望や疑問・質問、悩みなど伝えていただき、在宅復帰という目標に向かって我々と一緒に取り組んでいただくこととなります。

このように、以前は患者さんは受動的に治療を受ける存在であったものから、現在は患者さんも自身の生き方や考え方などを医療者に伝え、治療過程と一緒に参加していくものに変化してきています。

地域連携室

係長 秀熊有里